

## プレスリリース

2015年10月1日

報道関係 各位

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社  
日本イーライリリー株式会社

この資料は、ドイツ ベーリンガーインゲルハイムと米国イーライリリー・アンド・カンパニーが9月15日に発表したプレスリリースを日本語に翻訳したものです。なお、日本の法規制などの観点から一部、削除、改変または追記している部分があります。この資料の内容および解釈についてはオリジナルが優先することをご了承ください。

### 2 型糖尿病診断時の医師との会話の質が 患者の治療アドヒアランスおよび心理的健康度と関連

- 第51回欧州糖尿病学会議(EASD)にてIntroDia™の新たな患者データが発表
- 診断時に医師が発する「勇気づけ」や「協調性」の会話が患者のアウトカム改善につながる
- IntroDia™は、ベーリンガーインゲルハイムとイーライリリー・アンド・カンパニーが国際糖尿病連合(IDF)とのパートナーシップのもと実施

#### 2015年9月15日 ドイツ/インゲルハイム、米国/インディアナポリス

医師と2型糖尿病患者における診断時のコミュニケーションが、患者のセルフケアや健康状態に大きく影響する可能性があることが、新たな調査で明らかになりました<sup>1</sup>。この結果は、この分野では最大規模の多国間調査であるIntroDia™において、世界26か国、10,000名を超える2型糖尿病患者の回答に基づき、定量的に示されました<sup>1,2</sup>。IntroDia™の過去の調査では、経口薬の追加処方時の医師と患者のコミュニケーションでもこれと同等の関連性が示されています<sup>2</sup>。

IDF バイスプレジデントであり、IntroDia™アドバイザリーパネルのメンバーを務めるカナダの糖尿病看護指導士である、アン・ベルトン氏は次のように述べています。「2型糖尿病と診断されると、多くの場合ストレスや不安を感じます。2型糖尿病という病気そのものや対処方法が分からないことから、不安を抱えるものと思われま。IntroDia™の調査結果では、医療従事者が適切な言葉を選ぶだけで、患者さんに治療開始時から効果的な糖尿病管理法を実践してもらい、それを続けてもらうことができることを示唆しています。」

患者は医師の言葉を「勇気づけ」、「協調性」、「落胆させる」の3タイプに分け、それらが医師と患者のコミュニケーションの質に関与することがこの調査から分析されています<sup>1,2</sup>。医師から「勇気づけ」もしくは「協調性」の言葉をかけられれば、患者はコミュニケーションの質が著しく改善されたと感じ、その反対に「落胆させる」言葉が使われると逆の効果が生まれます<sup>1,2</sup>。

- 「勇気づけ」コミュニケーションの例として、「担当医から糖尿病の管理方法はいろいろな選択肢があると聞いた」といった言葉が挙げられます。
- 「協調性」コミュニケーションの例として、「担当医と治療計画を立てるときに、自分の意見を聞いてくれた」といった言葉が挙げられます。
- 「落胆させる」コミュニケーションの例として、「担当医から糖尿病はだんだん管理しづらくなると告げられた」といった言葉が挙げられます。

担当医と質の高い会話を交わしたと感じた患者は、糖尿病罹患による精神的な苦痛の軽減、食生活の改善、運動量の増加、そして服薬アドヒアランスの改善といった、セルフケアや心理的健康度にも改善が見られることが報告されています<sup>1,2</sup>。

行動心理学者でありIntroDia™アドバイザリーパネルのメンバーを務める米国のウィリアム・ポロンスキー博士は次のようにコメントしています。「この分野で最大規模の調査であるIntroDia™によって、医師と2型糖尿病患者さんの間で効果的な会話が交わされることが、患者さんご自身の症状に対する考え方や対処に強い影響

を及ぼすことが浮き彫りになりました。こうした最新の患者データによって、この疾患を長期的に管理していくうえで適正な初期対応がいかに重要であるかが強く裏付けられました。」

## 参考情報

### IntroDia™について

IntroDia™は、医師と2型糖尿病患者の治療初期のコミュニケーションについて調査した、最大規模の多国籍共同調査です。調査には、26カ国の6,753人の医師と10,139人の2型糖尿病患者から得られた情報が含まれます。この調査は、2型糖尿病管理においてきわめて重要だと思われる2つの時点、2型糖尿病診断時と経口薬が追加処方される時に焦点をあてています。データの評価は現在も継続しており、さらに詳しい結果については2016年にかけて発表していく予定です。IntroDia™調査で得られる情報は、2型糖尿病の治療初期のコミュニケーションを支援し、最終的には治療の質を向上させられるような解決方法の策定に使用します。

IntroDia™は、ベーリンガーインゲルハイムとイーライリリー・アンド・カンパニーの主導により、国際糖尿病連合とパートナーシップを組んで運営されています。また、プライマリーケア、内分泌学、行動心理学、看護・糖尿病教育の各分野の2型糖尿病専門家から成る集学的な国際審議会と共同で調査を進めています。同審議会には、Ms. Anne Belton(カナダ)、Dr. William Polonsky(米国)、Dr. Steven Edelman(米国)、Dr. Matthew S. Capehorn(イギリス)、Ms. Susan Down(イギリス)、Prof. Aus Alzaid(サウジアラビア)が参加しています。

### ベーリンガーインゲルハイムとイーライリリー・アンド・カンパニーの提携について

2011年1月、ベーリンガーインゲルハイムとイーライリリー・アンド・カンパニーは、糖尿病領域におけるアライアンスを結び、同領域において大型製品に成長することが期待される治療薬候補化合物を中心に協働していくことを発表しました。同アライアンスは、ベーリンガーインゲルハイムが持つ研究開発主導型イノベーションの確かな実績とイーライリリー・アンド・カンパニーが持つ糖尿病領域での革新的な研究、経験、先駆的な実績を合わせ、世界的製薬企業である両社の強みを最大限に活用するものです。この提携によって両社は、糖尿病患者ケアへのコミットメントを示し、患者のニーズに応えるべく協力しています。

### ベーリンガーインゲルハイムについて

ベーリンガーインゲルハイムグループは、世界でトップ20の製薬企業の1つです。ドイツのインゲルハイムを本拠とし、世界で146の関連会社と47,700人以上の社員が、事業を展開しています。1885年の設立以来、株式公開をしない企業形態の特色を生かしながら、臨床的価値の高いヒト用医薬品および動物薬の研究開発、製造、販売に注力してきました。

ベーリンガーインゲルハイムにとって、社会的責任は企業文化の重要な柱であり、その中にはグローバル規模のイニシアチブ「Making More Health(人々のより良い健康の実現を目指して)」をはじめとする社会的なプロジェクトへの関与や、社員への思いやりの精神などがあります。また、お互いに配慮し、平等な機会を提供し、業務やキャリアと家族生活との調和を重んじることは、相互協力の基盤となるものです。また、あらゆる場面で環境保護と持続可能な社会の実現に向けて注力しています。

2014年度は133億ユーロ(約1兆8670億円)の売上高を達成しました。革新的な医薬品を世に送り出すべく、売上の19.9%相当額を研究開発に投資しました。

日本ではベーリンガーインゲルハイム ジャパン株式会社が持ち株会社として、その傘下にある完全子会社の日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社(医療用医薬品)、エスエス製薬株式会社(OTC医薬品)、ベーリンガーインゲルハイム ベトメディカ ジャパン株式会社(動物用医薬品)、ベーリンガーインゲルハイム製薬株式会社(医薬品製造)の4つの事業会社を統括しています。

日本ベーリンガーインゲルハイムは、循環器、呼吸器、糖尿病、腫瘍、中枢神経などの疾患領域で革新的な医療用医薬品を提供しています。

### イーライリリー・アンド・カンパニーについて

イーライリリー社は、世界中の人々の生活をより良いものにするためにケアと創薬を結び付けるヘルスケアにおける世界的なリーダーです。イーライリリー社は、1世紀以上前に、真のニーズを満たす高品質の医薬品を創造することに全力を尽くした1人の男性によって設立され、今日でもすべての業務においてその使命に忠実であり続けています。世界中で、イーライリリー社の従業員は、必要とする人々の生活を変えるような医薬品を開発し

届けるため、病気についての理解と管理を向上させるため、そして慈善活動とボランティア活動を通じて地域社会に利益を還元するために働いています。

#### イーライリリー・アンド・カンパニーの糖尿病事業について

イーライリリー・アンド・カンパニーは 1923 年に世界で初めてインスリン製剤を開発して以来、糖尿病ケアの分野において常に世界をリードしてきました。現在も、糖尿病患者さんやケアを行う人々の様々なニーズに応えることで、この伝統を築いています。研究開発や事業提携、拡大し続ける幅広い医薬品ポートフォリオ、そして、医薬品からサポートプログラムをはじめとする実質的なソリューションを提供し続けることを通じて、世界中の糖尿病患者さんの生活の改善に努めます。

#### 日本イーライリリー株式会社について

日本イーライリリー株式会社は、イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、本年設立 40 周年を迎えます。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じて日本の医療に貢献しています。統合失調症、うつ、双極性障害、注意欠如・多動症 (AD/HD)、がん (非小細胞肺癌、膵がん、胆道がん、悪性胸膜中皮腫、尿路上皮がん、乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫、胃がん)、糖尿病、成長障害、骨粗鬆症などの治療薬を提供しています。また、アルツハイマー型認知症、関節リウマチ、乾癬、高コレステロール血症などの診断薬・治療薬の開発を行っています。詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.boehringer-ingelheim.com>

(ベーリンガーインゲルハイム)

<http://www.boehringer-ingelheim.co.jp>

(ベーリンガーインゲルハイムジャパン)

<http://www.lilly.com>

(イーライリリー・アンド・カンパニー)

<http://www.lilly.co.jp>

(日本イーライリリー)

#### References

1. Polonsky WH, et al. Physician-patient communication at type 2 diabetes diagnosis and its links to physician empathy and patient outcomes: new results from the global IntroDia™ study. Poster A-15-449. *51st Meeting of the European Association for the Study of Diabetes (EASD) 2015, Stockholm, Sweden*. 2015.
2. Edelman S, et al. Physician-patient communication at prescription of an additional oral agent for type 2 diabetes: link between conversation elements, physician empathy and patient outcomes. Poster A-15-496 *51st Meeting of the European Association for the Study of Diabetes (EASD) 2015, Stockholm, Sweden*. 2015.